

vol.47-4 (通算 529号)

2017年7月号

やどかり

2017年7月15日発行
(毎月1回15日発行)1987年12月19日第三種郵便物認可
発行人 公益社団法人やどかりの里
代表者 土橋 敏孝
〒337-0043
さいたま市見沼区中川 562

TEL 048-686-0494

FAX 048-747-7030

定価 50円(含会費)

2017年度定時総会開催

社会の動きを視野に入れつつ、変化するニーズに応えた実践を展開してきた2016年を振り返る1日

本年度の定時総会を6月24日(土)に開催し、2016年度の事業報告案及び決算案が承認された。

やどかりの里は事業報告を「所報」という形でまとめている。2016年度版は57ページ、相模原の障害者施設での殺傷事件に大きな衝撃を受け発信したメッセージ「互いのいのちを大切に作る社会に向けて」と、「やどかりの里職員倫理綱領」を掲載したことが2016年の所報の特徴だ。

「経済優先の政策が、富の偏在と格差をもたらし、人々の人生やいのちが軽んじられている」と所報の「はじめに」が始まっている。この国はどうなっていくのか、私たちはどういう世界で生きたいのかを問い、考えてきた1年であった。その様子はイラストのページ、「やどかりの里2016 TOPICS」に描かれている。つながりをキーワードに奮闘し、1つの縁が結び合い、その輪は確実に広がっていることが実感できよう。

総会の中では熊本大地震への職員派遣、精神保健福祉法の改正など社会情勢と連動したやどかりの里の活動の全体的総括、やどかりの里のメンバー(登録者)の状態の分析など担当者が順次「所報」に基づいて報告した。

続いて2016年度の決算概要として経常収入は5億4,009万円(昨年度比3,540万円増)、経常費用5億3,985万円(昨年比2,208万円増)当期として23万円の剰余が計上され、この剰余金はグループホーム建設のための土地代となることが説明された。なお、やどかり情報館建設時の長期借入金8,000万円は20年に

渡る返済を終えた。

やどかりの里はメンバー・家族・職員が三位一体となって互いに意見を出し合い、次なる活動を描くことを従来より大切にしてきた。しかし当該年度の事業計画と予算は昨年度から総会の議決事項ではなくなったため、総会終了後に出席者が今後の活動について意見交換ができる場を設けることにした。今年も2017年の事業計画書を手に取り将来ビジョンやグループホームの建設、地域活動支援センターの新たな取り組みや、やどかり農園の活動の意味などを確認する時間をもった。特にグループホーム建設については出席者が互いの思いを確認するよい機会となった。

さて、1998年5月の機関誌の中で「定期総会にあたって思うこと」という記事を故粕谷慶治さん(長年やどかりの里の理事を務めていた)が書いている。「存続の危機の時代、何億なんていう数字は夢のまた夢」「でも夢だと思っていなかったことがある。仲間づくりとあたり前の生活の実現をめざすやどかりの里の理念が広がることだった。日に日に活動を広げ大きくなっていくやどかりの里を見るにつけ、いつも原点に戻ってメンバーの危惧や思い、あるいは家族からの訴えなどこの里を見据えて過ごして行きたいと思う」

時代を経てやどかりの里の年間予算は今や5億円を超える規模となった。それでも故粕谷理事が思ったように、原点に戻りともにつくり上げる作業を確認する場として今後も定時総会を開催していきたい。